

セメスター制導入によるカリキュラム改革:神奈川県立外語短期大学事例報告
 How Semestral System Renovated English Curriculum
 at Kanagawa Prefectural College of Foreign Studies

[keywords] 4-semester curriculum, intensive course, presentation skills,
 elective-compulsory, pre-registration

神奈川県立外語短期大学
 前田 道代

1. はじめに

神奈川県立外語短期大学は、英語科(定員100名)のみの小規模短大であり、少人数制の徹底した英語教育を伝統としている。平成4年度に新設置基準等検討委員会を発足させ、セメスター制の導入に基づく抜本的なカリキュラム改編を決定し、平成5年度より施行している。英語科目についての新カリキュラムの特徴は、発表表現力の育成に重点をおいた教育、外国人教員担当科目の増加、学生の科目選択権の増加の三点にある。現在は、施行後三年を経て、より教育効果を高めるために必要な運営上の諸問題の解決策を試行中である。ここではセメスター制の導入がもたらした効果を中心に事例報告をしたい。

2. 旧カリキュラム改編の経緯

カリキュラム改編にあたり、以下の問題点を改善するために、セメスター制への移行が決定された。

(1)学生の科目選択の機会が非常に限定されている。

旧カリキュラムでは、必修科目が通年科目であり、受講時限も指定されるため、半期科目の多い選択科目でも受講できないことが多かった。

(2)平均受講科目数が多すぎるため、各科目への集中度が低く、学習効果が低下傾向にある。

(3)増加しつつある9月からの留学希望者の対応策が必要である。

中間での成績評価、復学後の同一科目の継続受講等、通年科目の扱いについて問題が生じる可能性があった。

さらに、外語短大の教育方針の特色をカリキュラムの上でより鮮明に出すことが必要であるとの意見を受け、一般教育、外国語、保健体育、専門教育科目の四区分から成っていた旧カリキュラムの科目を編成しなおし、基礎・教養、外国語、学科科目の三区分からなる新カリキュラムの骨子が決定された。英語関連科目は旧カリキュラムでは、英文講読、英語学、英会話及び英作文、関連科目、貿易・経済の五区分から成る専門教育科目の一部として、概略以下のように構成されていたが、新カリキュラムでは、貿易・経済科目と共に学科科目を構成する英語科目として独立することとなった。

専門教育科目(英語関連科目のみ)〔*は半期科目を示す〕

1年次必修: 英文講読IA、文学作品I、英会話IA、英作文I

1年次選択: 英文講読IB、英会話IB、英文法、英語音声学、日本語表現法、

*言語学、*英米事情、*英国史、*英文タイプ、時事経済英語、LLI

9月22日(日) 事例研究第1室(1213)

2年次必修：英文講読IIA、文学作品II、英会話IIA、英作文IIA

2年次選択：英文講読IIB、英会話IIB、英作文IIB、英語慣用法、英語学、*日本語、*日本語教授法、*宗教概論、*比較文化論、*米国史、英文学史、LLII、時事経済英語II、*コンピュタ概論、*コンピュタ演習、特別演習

3. 英語科目のカリキュラム改革の概要

英語科目の新カリキュラム構成にあたっては、導入が決定されたセメスター制を教育効果を高めるためにどうカリキュラム構成に反映させるかが一番の課題となった。また、新たに英語科目として独立区分を成すにあたり、科目内容の再検討を行い、科目間の学習内容に重複がでないよう調整し、段階的に難易度があがることが学生に明示出来るよう、新たに科目名を設定することとなった。

英語運用力を養成するためには、集中学習期があることと、外国人教員の担当科目が多いことが望ましい。セメスター制の導入は、前期には1年次生に、後期には2年次生に外国人講師担当の科目を多く配分し、集中学習期を設定することを可能としてくれた。この点を大きな特徴として新カリキュラムにおける英語科目は別表のように設定されたが、旧カリキュラムに対しての改善点は以下のように概括できる。

(1) 英語集中学習期が設定され、外国人教員の担当科目が多い。

I期は外国人講師による週3限の授業を含む週8限が必修英語科目となり、英語運用力の短期養成を目指している。またIV期は必修3科目に加え、選択必修科目の複数受講、ESP等の選択により週8限程度まで外国人講師の授業を受講でき、留学・進学に備えることができる。

(2) 必修科目は発表表現力の養成に重点をおき、期毎に難易度が上がるよう学習内容が設定されている。

(例) Speaking

- I - basic conversation
- II - formality difference
- III - news summary
- IV - speech

Writing

- Ia - sentence composition
- Ib - postcards, letters
- II - paragraph writing
- III - essay, summary writing
- IV - essay, creative writing

(3) 学生の科目選択の機会が多い。

受講時限と担当講師が指定される必修科目は期毎に減少し、複数の科目もしくは担当講師から選択できる選択必修科目が増加する。

(4) 週二限の授業導入により、1期で4単位の講義科目、2単位の演習科目が増加した。

一期に履修する科目数が減少し、より集中して学習出来るようになった。

以上の点は、いずれもセメスター制導入を前提としてはじめて可能となったものである。次に述べる課題はあるものの、学生は概ね自主的に学習計画を立てることに意欲を見せ、15週を単位とする短期間に、より少ない数の科目を集中的に学習することで、以前より高い学習効果をあげている。

9月22日(日) 事例研究第1室(1213)

表：新カリキュラム 英語科目構成

	必修(クラス指定)	選択必修	選択
I	Extensive Reading Writing Ia Writing Ib *Speaking I English Phonetics I	*English Workshop	*English Linguistics *English Studies B Text Reading A Listening ComprehensionA/B
II	Intensive reading Writing II Speaking II English Phonetics II		*English Studies A/B *American Studies B *English Linguistics Text Reading A/B Listening ComprehensionA/B <u>Communicative Skills</u>
III	Speaking III	*Seminar A [Oral Composition, Speech & Debate, Essay Writing]	English Grammar English Usage *English Linguistics *English Studies B *American Studies A Current English I Text Reading A Listening ComprehensionA/B
IV	Speaking IV	[Oral Composition, Speech & Debate, Essay Writing, Creative Writing] [Anglo-American Culture, Reading & Discussion]	English Grammar English Usage *English Linguistics *English Studies A/B *American Studies B Current English II Text Reading A/B Listening ComprehensionA/B Translation *Seminar B <u>ESP</u>

* : 週二時限授業 ——— : 外国人講師担当 ----- : 一部外国人講師担当
[] : 該当グループより最低一科目を選択

9月22日(日) 事例研究第1室(1213)

4. 今後の課題

学生により多くの科目選択の自由を与えることは、カリキュラム改革の目標の一つであったが、これを原因として、初年度には特定時限のクラスに受講希望者が殺到し、受講クラスがなかなか確定できないという混乱が生じた。次年度より、二年次の選択必修科目については事前登録を行い、受講希望者数に応じて各科目のクラス数を決定することとした。科目内容についての選択権は保証するが受講時限については指定制をとることで、この問題は解決できた。

現在、このカリキュラムを効率的に運営するために不可欠の検討事項として残されているのは、次の点である。

(1)複数の教員で担当する同一の必修科目の授業内容の均一化をどう実現するか。

(2)学生の履修計画に、I/II期に取れるだけの単位を取得し、III/IV期は必修以外の科目の履修を避けようとする傾向が見え、科目選択の自由が必ずしも望ましい形で使用されていない。どのような形で学生に履修計画指導を行なうか。

(1)については、期毎に難易度が上がるように設定されている科目の場合、目標とされた内容を教授されなかった学生が不利益を被ることになり、大きな問題となっている。現時点では、解決策として講義要項、使用教材の共用や科目担当者間の会合等の実現をめざしている。この方策により、外国人教員担当科目については、すでにかかなりの改善が見られるようになってきている。

(2)については、選択科目を同一時限に集中させて開講する等の時間割編成の工夫等で対応を試みているが、効果についてはもうしばらくの調査が必要である。